

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
210	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）	
Alcohol consumption and the risk of end-stage renal disease among Chinese men. 中国人男性における飲酒と終末期腎疾患リスクの関連	
執筆者	
Reynolds K, Gu D, Chen J, Tang X, Yau CL, Yu L, Chen CS, Wu X, Hamm LL, He J.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Kidney International 2008; 73: 870-876.	
キーワード	
末期腎不全、飲酒、前向き研究、危険因子、中国、男性	
要 旨	
<p>40歳以上の中国人男性 65,601 人の前向きコホート研究にて飲酒量と終末期腎疾患（end-stage renal disease, ESRD）発症と関連を検討した。飲酒の量と種類をベースラインで調査し、8-9年後に疾患発症を調査した。500,876 人年の観察期間中、176 人が腎移植治療を受けるか、腎不全で死亡した。非飲酒者に比べ、年齢、地域、都市化、教育、BMI、身体活動量、喫煙を調整した ESRD の相対危険度は、週 21 杯未満飲酒者で 0.67、それ以上の飲酒者で 0.52 であった。飲酒と ESRD との負の関連は、収縮期血圧、糖尿病および循環器疾患既往を調整後も存在した。研究結果は中国人男性における飲酒と ESRD リスクとの負の関連を示唆した。しかし、多量飲酒は他の疾患の発症や死亡のリスクを上昇させると考えられるので、本研究結果の適用は慎重になされるべきである。</p>	